



2013
平成二十五年



加納の国

<http://kanou-jyo.net/>

第16号
H25年2月

発行：加納まちづくり会

平成25年度・総会を開催します！！

開催日時：平成25年5月25日（土）（予定） 場所：南部コミュニティセンター

毎年恒例の、加納まちづくり会の総会を5月に開催します。場所はいつもの南部コミュニティセンター（午後開催）で、総会の後は講演会も予定しております。新しく会員になられた方も含め、皆様のお越しをお待ちしております。（後日、正式案内をお送りします。）

早いもので、今年もすでに2月が終わろうとしています。時の経つのは年々早くなっている感がありますが、会員の皆様は如何おすごしでしょうか。あと少しで本格的な春を迎えますが、インフルエンザ等には十分お気をつけ下さい。

◎ 先進地研修・近江八幡について

昨年の11月18日（日）に、先進地研修として滋賀県豊郷町にあります旧豊郷小学校及び近江八幡市に視察旅行に行きました。

旧豊郷小学校は、1937年（昭和12年）に本校出身で伊藤忠商事および丸紅の前身にあたる伊藤忠兵衛商店専務の古川鉄治郎が、アメリカ人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズに設計を依頼して校舎・講堂を建設し寄贈されたものであり、当時としては珍しい鉄筋コンクリートの校舎で一躍有名となりました。一時期は解体騒動もありましたが現在までほとんど残されており、今でも見学者が絶えない状況のようです。



TVで解体工事が強行される様子が映ったおかげで本校が一躍有名になるという皮肉さはありませんでしたが、実際に見学するととても厳かな雰囲気と重みがあり、絶対に後世まで残すべき重要な建築物であることが実感できました。

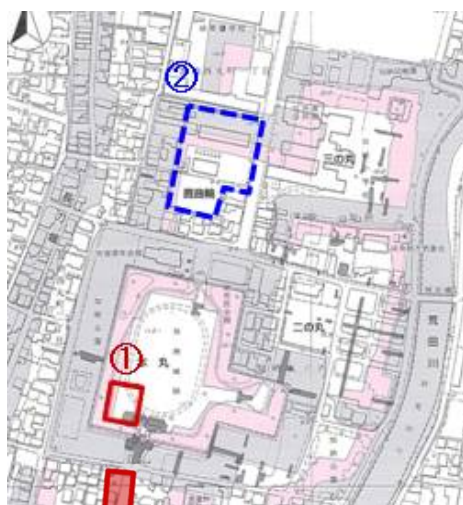
近江八幡市は、街の中心部を横断する八幡堀界隈を視察しました。

八幡堀は1585年（天正13年）に豊臣秀次が八幡城とともに築造されたもので、堀の両端が琵琶湖と接しており、運河としての役割も果しておりました。よって、近江八幡は大津・堅田とともに琵琶湖の三大港として安土桃山時代から江戸時代にかけて大いに栄えましたが、昭和の時代には衰退し、一時期は堀の埋立てという消滅の危機に瀕しました。ところが、豊郷小学校と同様に保存運動が起こり、堀の清掃活動など地域住民の奮闘もあって、堀を中心とした新たな観光名所として注目されつつあります。



実際に視察してみて、八幡堀界隈は時代劇のロケにも用いられるほどの見事な景観であり、岡山の倉敷によく似た雰囲気であること、また、有名な種や（和洋菓子店）の本店やかわらミュージアムなどの見どころも多数あり、街をあげて活性化に取り組んでいる様子が伺えました。我が加納も見習うところが多いですね。

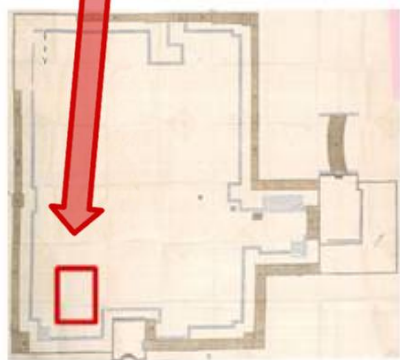
◎ 加納城発掘（本丸） 報告について



加納の風・第15号でお伝えしました、岐阜市教育委員会による加納城跡の発掘調査ですが、1月10日（木）に本丸（左図の①）の発掘成果の報告会がありました。本丸については、過去に何度か調査位置を変えては発掘がなされてきました。本丸鉄門（大手門）前の堀障子を代表として、夥しい数の瓦・陶磁器・その他埋蔵物の発見がされてきましたが、会員の皆さんの一番の関心事である本丸御殿に直接関わるような発見はありませんでした。

今年度の調査においても、本丸御殿に直接関係するような発見（建物の礎石、雨だれ等の発見）はありませんでしたが、火災等により被災したと考えられるような瓦の出土等によって、ますます「かつて本丸御殿があったのでは？」という可能性が高まってきたのではないのでしょうか。

（厩曲輪（左図の②）については、2月末頃に発掘成果の報告会が予定されております。）



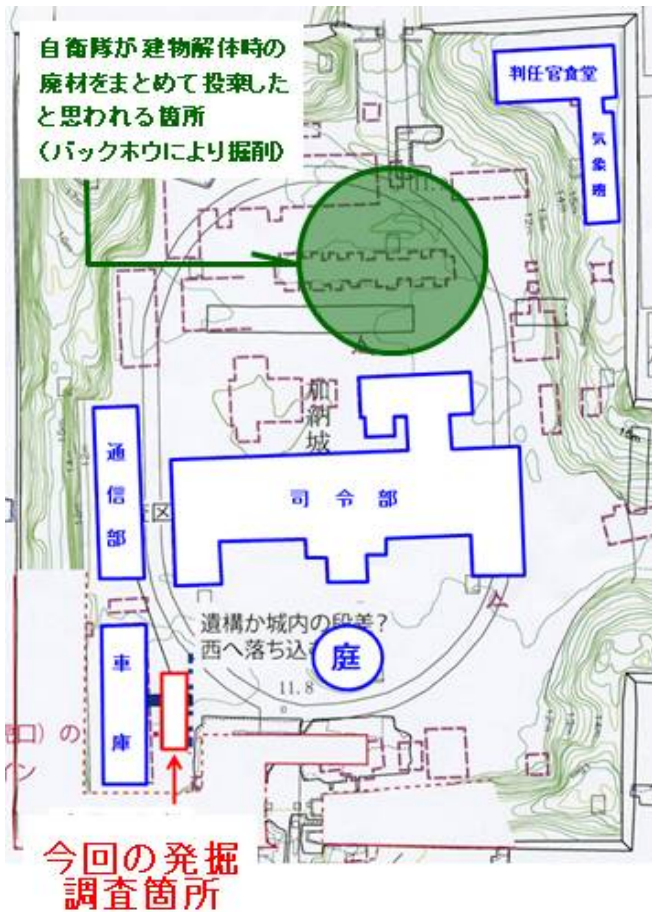
江戸期の本丸の見取図
（1700年以降）



昭和50年10月、陸上自衛隊・第10対戦車隊が春日井駐屯地に移転した直後の航空写真



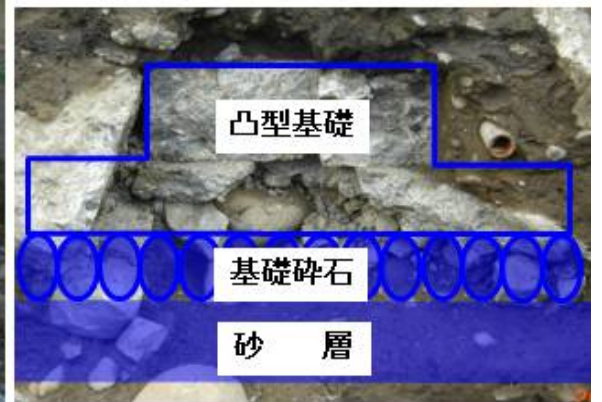
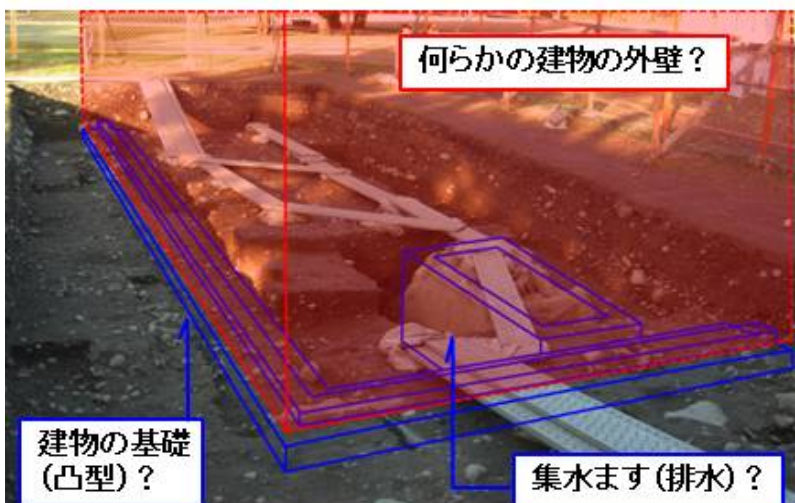
昭和15(1940)年7月17日
軍令陸甲第二十五號「陸軍航空部隊編制」より



発掘調査箇所 全景



上: 集水ます (推定)
下: 凸型基礎 (推定)



今回発掘調査された箇所は上の本丸図面の左下辺りの、かつて駐屯していた自衛隊の車庫の前面付近で、かつ、加納城の臆病門の内柵型の盛土の背後付近に当たる箇所です。事前にこの辺りは、旧陸軍や自衛隊関係の建物が何も存在しなかった空白地帯と考えられていましたが、実際には写真のように建物の基礎や集水ます（雨水・排水等の処理ます）と考えられる構造物が出土しました。よって、車庫の前面には何らかの建物が存在した可能性が考えられます。また同時に、火災等で被災したと考えられる瓦、キセルの一部、陶磁器、釘の一部も出土しました。



このように、発掘によって旧来の資料には無いような構造物が発見されるため、今後の発掘調査次第ではついに本丸御殿の決定的な証拠が見つかるかもしれません。大いに期待したいところです。

なお、次回の本丸発掘の調査予定箇所は本丸の南東部辺りだそうです。

写真左：被災した瓦類
写真中：鯨（しゃち）瓦の一部
写真右上・下：釘及びキセルの一部

(文: 篠田)

◎ 加納ものしり博士検定 番外編（前号の回答）

前号に出題しました問題・3問の回答です！

問1 中山道加納宿のカラー舗装の側溝にはめられている蓋のうち、「中山道・御鮎街道」と書かれている「グレーチング（鉄製側溝蓋）」は、何枚あるでしょう？

（答）220枚 数えていると途中で分からなくなるかも...

問2 加納安良町にある道標（写真）の建立された年は何年でしょう？

（答）明治18年 周りをなんとか囲って道標らしくできるといいですね。



問3 江戸時代の加納は加納藩領でしたが、大分県日田市の歴史的建造物が多く残る豆田地区の江戸時代の領主は？

（答）江戸幕府 もしくは 将軍 実際には、西国筋郡代（旗本）が治めていました。

会員の皆様はお解りでしたでしょうか。これからもいろいろと出題していきたいと思っていますので、どうぞご期待下さい。

◎ 先進地研修でのアンケートについて

昨年の11月18日（日）の先進地研修で、参加された皆様から多数のアンケートを頂きました。大変ありがとうございました。

アンケート結果ですが、参加された大多数の方から今回の研修内容に高い評価を頂いております。豊郷小学校は奥深さ・先人の偉大さ・歴史の重みなどを、近江八幡は八幡堀の美しさ・優雅さ・かわらミュージアムや各商業施設の良さなどを、それぞれお感じになっておられるようです。昼食の近江牛定食も好評のようでした。

しかし我が加納に対するご意見としましては、近江八幡や豊郷小学校との大きな差や、なかなか進まない行政の取り組み（加納城の復元・中山道界隈のまちおこし等）に、加納の置かれた厳しい現状を感じざるを得ないようです。ハードルは非常に高いでしょうが、皆様をはじめ地域住民一人一人の意識が、改善への原動力に繋がっていくものと思われれます。

◎ 役員会だより

平成24年度の役員会は第7回を10月26日（金）、第8回を11月16日（金）にそれぞれ行ないました。前号では久々に番外編ではありますが加納ものしり博士検定を復活させるなど、過去に好評だった企画に再度スポットライトを当ててみました。本誌がより盛り上がるよう、これからもいろいろと検討していく予定です。

今後ともご期待下さい。

◎ 会員の皆様へ

加納まちづくり会では、会員の皆様からのご意見・ご要望・その他面白い企画やアイデアを常時募集しております。「ああしたらいいな」「ここをこう改善したら」「こんなことをしてみたい」などイメージで結構ですので、よろしくお願いします。

◎ 本誌のPDFデータについて

会員の皆様にお配りしております本誌（モノクロ版）ですが、カラー版がホームページに掲載しております。アドレスは「<http://kanou-jyo.net/>」です。ぜひご覧下さい。



問合せ・連絡先

事務局 〒500-8415 岐阜市加納中広江町68 横山ビル3階

事務局長 松尾 一 TEL090-3389-3067 FAX058-274-7197

どうぞお気軽にご連絡ください！

（発行者：水野律子、編集者：塚本睦、篠田哲郎）



加納まちづくり会